

共同研究の成果を公表する書籍の出版に当たって

福井県知事 西川 一誠

このたび、昨年6月からスタートした福井県と慶應義塾大学「地域の環境貢献に関する共同研究」の成果を公表する書籍の出版が行われることとなった。

共同研究の実施に当たりご尽力いただいた安西祐一郎塾長、小林良彰法学部教授、浜中裕徳環境情報学部教授ほかの慶應義塾大学の皆様に厚くお礼を申し上げます。

本県では、平成18年度から地球温暖化対策の県民運動である「LOVE・アース・ふくい」を展開している。

昨年11月には「福井県環境基本計画」を改定して、福井型のカーボンオフセットである「環境福井CO₂削減貢献プロジェクト」や一世帯あたりの自動車保有数が日本一多いことを踏まえた「ストップ乗りすぎプロジェクト」などを通じて、県単独の地球温暖化対策をステップアップさせている。

今回公表された「環境貢献度マップ」において、本県が非常に高い環境貢献度を示していることは、これらの政策が奏功しているものと考えているが、一方で、家庭生活上で排出されているCO₂の排出量は、他都道府県と比較して、いまだ高いレベルにあることがわかった。

今後は、こうした部門のCO₂排出量を抑制するため、この書籍でも採り上げている「わが家のエコ宣言」などの仕組みを通じ、県民の皆さんと一丸となって、より環境貢献度の高い福井県を実現していく。

また、今回、様々な分野から先進の事例や、最新の知見に基づく提案・提言が行われた。

近く、これらをもとに、地球温暖化対策を日本がリードするための手法を地方政府たる福井県から政策提言していきたい。